

大項目	読むこと
小項目	カタカナの読み
タイトル (教材名)	ひらがなとつなげて覚えよう！(イラスト編)
目的 身につけてほしい力	・イラストを使って、カタカナとひらがなを関連づけて覚える。
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	 <p>(図)</p> <p>・図のような、イラストとそのイラストをあらわすひらがなとカタカナが記されたカードを作成する。</p>
教材の使用方法	<p>① 指導者は、カードを一枚ずつ提示し、児童生徒はカードを読む。</p> <p>② 児童生徒は先にひらがなを読み、次にカタカナを読む。その際、指導者は初めはカタカナを隠す(児童生徒はひらがなのみを見て読む)、次にひらがなを隠す(児童生徒はカタカナのみを見て読む)、などの手だてが有効である。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの読みが定着しているかの確認をしてから行う。 ・図のように、「ア」と「マ」、「ツ」と「シ」と「ン」など、間違えやすいカタカナ、字体の似ているカタカナをイラストとともに扱うことで、「アリのア」、「クマのマ」というようにキーワードでカタカナの読みを覚えることが期待できる。また、指導者は文字の間違えやすい部分(似ている部分)に注目できるよう促す。 ・「ひらがなと形が同じ」、「ひらがなと形が似ている」、また「ひらがなと形が似ていない」カタカナも同様に行う。 ・イラストで使用するものは、児童生徒にとって身近で親しみやすいものであることが望ましい。身近で親しみやすいものを扱うことで、楽しみながらひらがなとカタカナのマッチングを行っていく。 ・発展した形として、イラストとそのひらがなのみが記されたカードまたはプリントを作成し、児童生徒はそのイラストをあらわすカタカナを書く。児童生徒は自ら書いたカタカナを読む。 ・カタカナは、ひらがなと同じく表音文字であり、字そのものに意味はないため、音と字のマッチングができなければ読めない。マッチングしやすくするために、児童生徒にとって身近で親しみやすいものをイラストとして使用し、読みの定着を図っている。 ・参考文献「特別支援教育をサポートする読み・書き・計算指導事例集」梅田真理 ナツメ社 2016年